

# 調査結果の概要

## 1 発育状態

### (1) 身長 (表1、表2、図1、図2、統計表1、統計表2-1、統計表2-2)

① 平成22年度の男子の身長は、5歳、7歳、9歳、13歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。

女子の身長は、6歳、8歳、10歳、13歳、15歳、17歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、13歳が155.9cmで調査開始以来最高(過去最高と同値を含む。以下「過去最高」という)となった。

② 平成22年度の身長を30年前の昭和55年度(親の世代)と比較すると、女子の5歳を除く男子、女子の各年齢で親の世代を上回り、最も差がある年齢は男子が13歳で2.5cm、女子では11歳で2.3cm親の世代より高くなっている。

③ 平成22年度の身長を全国平均値と比較すると、男子の10歳を除く男子、女子の各年齢で全国平均値を上回っており、最も差がある年齢は男子が13歳で0.8cm、女子では13歳で0.9cm全国平均値より高くなっている。

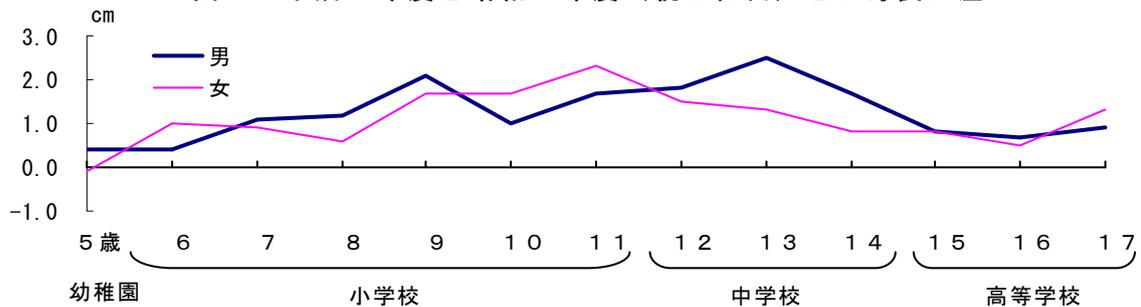
表1 年齢別身長の平均値

(単位:cm)

区分	男子							女子							
	平成22年度 A	平成21年度 B	A-B	昭和55年度 (親の世代) C	A-C	平成22年度 全国平均 D	A-D	平成22年度 E	平成21年度 F	E-F	昭和55年度 (親の世代) G	E-G	平成22年度 全国平均 H	E-H	
幼稚園	5歳	111.0	110.8	0.2	110.6	0.4	110.7	0.3	109.9	110.1	△ 0.2	110.0	△ 0.1	109.8	0.1
	6歳	116.9	117.5	△ 0.6	116.5	0.4	116.7	0.2	116.4	116.1	0.3	115.4	1.0	115.8	0.6
小学校	7歳	123.0	122.9	0.1	121.9	1.1	122.5	0.5	121.9	122.2	△ 0.3	121.0	0.9	121.7	0.2
	8歳	128.7	129.1	△ 0.4	127.5	1.2	128.2	0.5	127.7	127.4	0.3	127.1	0.6	127.4	0.3
	9歳	134.2	133.9	0.3	132.1	2.1	133.5	0.7	133.9	134.1	△ 0.2	132.2	1.7	133.5	0.4
	10歳	138.8	139.5	△ 0.7	137.8	1.0	138.8	0.0	140.6	140.4	0.2	138.9	1.7	140.2	0.4
	11歳	145.2	145.4	△ 0.2	143.5	1.7	145.0	0.2	147.1	147.4	△ 0.3	144.8	2.3	146.8	0.3
中学校	12歳	152.7	152.9	△ 0.2	150.9	1.8	152.4	0.3	152.2	152.2	0.0	150.7	1.5	151.9	0.3
	13歳	160.5	160.3	0.2	158.0	2.5	159.7	0.8	155.9	154.8	1.1	154.6	1.3	155.0	0.9
	14歳	165.8	166.0	△ 0.2	164.1	1.7	165.1	0.7	157.1	157.1	0.0	156.3	0.8	156.5	0.6
高等学校	15歳	168.4	168.8	△ 0.4	167.6	0.8	168.2	0.2	157.7	157.6	0.1	156.9	0.8	157.1	0.6
	16歳	170.1	170.2	△ 0.1	169.4	0.7	169.9	0.2	158.1	158.2	△ 0.1	157.6	0.5	157.7	0.4
	17歳	171.2	171.2	0.0	170.3	0.9	170.7	0.5	158.7	158.1	0.6	157.4	1.3	158.0	0.7

注)平成22年度については調査開始(昭和23年度)以来の最高値(過去最高と同値を含む)を網掛けで示している。

図1 平成22年度と昭和55年度(親の世代)との身長の差



注) 身長の差は、都の平成22年度平均値から昭和55年度(親の世代)平均値を差し引いたものである。

④ 平成4年度生まれ（平成22年度17歳）の年間発育量をみると、男子では11歳から12歳時に発育量が著しく増加しており、12歳時に最大の発育量を示している。女子は9歳時に最大の発育量を示している。最大の発育量を示す年齢は、女子のほうが男子に比べ3歳早くなっている。

また、この発育量を昭和37年度生まれ（親の世代の17歳）と比較すると、男子は発育量が最大となる時期は親の世代と同じ12歳となっており、5歳から7歳、9歳、12歳の各歳時で親の世代を上回っている。女子では親の世代より1歳早い9歳で最大の発育量となっており、6歳及び9歳で親の世代を上回っている。

表2 平成4年度生まれと昭和37年度生まれの年間発育量の比較（身長）

（単位：cm）

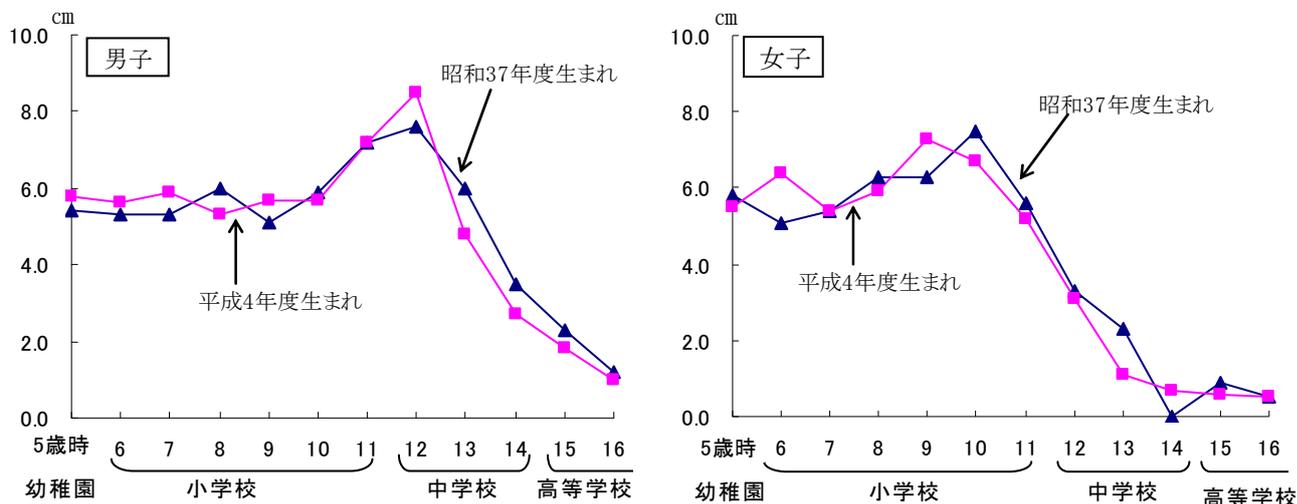
区分	男子		女子		
	平成4年度生まれ （平成22年度17歳）	昭和37年度生まれ （親の世代の17歳）	平成4年度生まれ （平成22年度17歳）	昭和37年度生まれ （親の世代の17歳）	
幼稚園 5歳時	5.8	5.4	5.5	5.8	
小学校	6歳時	5.6	5.3	6.4	5.1
	7歳時	5.9	5.3	5.4	5.4
	8歳時	5.3	6.0	5.9	6.3
	9歳時	5.7	5.1	7.3	6.3
	10歳時	5.7	5.9	6.7	7.5
11歳時	7.2	7.2	5.2	5.6	
中学校	12歳時	8.5	7.6	3.1	3.3
	13歳時	4.8	6.0	1.1	2.3
	14歳時	2.7	3.5	0.7	0.0
高等学校	15歳時	1.8	2.3	0.6	0.9
	16歳時	1.0	1.2	0.5	0.5
総発育量	60.0	60.8	48.4	49.0	

注1) 年間発育量とは、例えば、平成4年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成11年度調査6歳の者の身長から平成10年度調査5歳の者の身長を差し引いたものである。

2) 網掛けの数値は、年間発育量の最大値である。

3) 昭和37年度生まれの6歳、7歳、8歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を基に算出した。

図2 平成4年度生まれと昭和37年度生まれの年間発育量の比較（身長）



(2) 体重 (表3、表4、図3、図4、統計表1、統計表3-1、統計表3-2)

① 平成22年度の男子の体重は、5歳、9歳、15歳、17歳を除く各年齢で前年度の同年齢より減少している。

女子の体重は、10歳、11歳、13歳、15歳から17歳を除く各年齢で前年度の同年齢より減少している。

② 平成22年度の体重を昭和55年度(親の世代)と比較すると、男子は5歳、6歳を除く各年齢で、女子は5歳、12歳、14歳を除く各年齢で親の世代を上回っている。また、最も親の世代との差がある年齢は男子が17歳で1.9kg、女子では11歳で1.6kg重くなっている。

③ 平成22年度の体重を全国平均値と比較すると、男子は6歳、8歳、10歳、12歳、15歳、16歳の各年齢で全国平均値を下回っている。

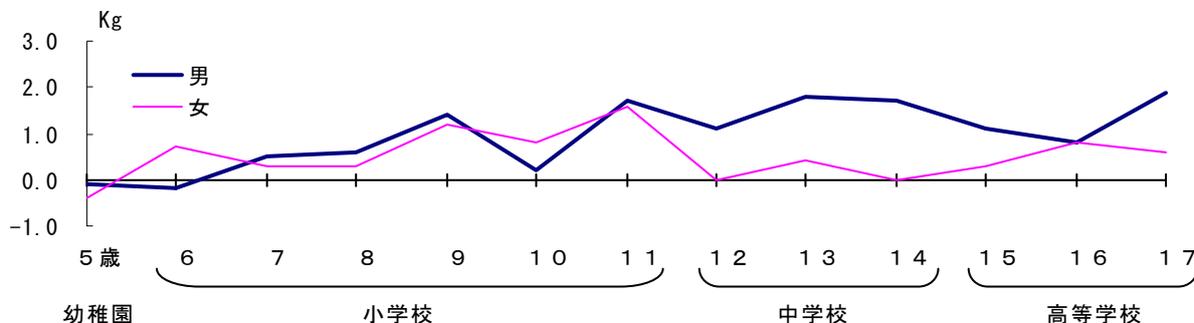
女子は5歳、7歳から9歳、12歳、14歳、17歳の各年齢で全国平均値を下回っている。

表3 年齢別体重の平均値

(単位:kg)

区分	年齢	男子						女子							
		平成22年度 A	平成21年度 B	A-B	昭和55年度(親の世代) C	A-C	平成22年度全国平均 D	A-D	平成22年度 E	平成21年度 F	E-F	昭和55年度(親の世代) G	E-G	平成22年度全国平均 H	E-H
幼稚園	5歳	19.0	19.0	0.0	19.1	△ 0.1	19.0	0.0	18.5	18.7	△ 0.2	18.9	△ 0.4	18.6	△ 0.1
	6歳	21.2	21.7	△ 0.5	21.4	△ 0.2	21.4	△ 0.2	21.1	21.2	△ 0.1	20.4	0.7	21.0	0.1
小学校	7歳	24.1	24.2	△ 0.1	23.6	0.5	24.0	0.1	23.1	23.5	△ 0.4	22.8	0.3	23.5	△ 0.4
	8歳	27.1	27.4	△ 0.3	26.5	0.6	27.2	△ 0.1	26.3	26.4	△ 0.1	26.0	0.3	26.5	△ 0.2
	9歳	30.6	30.5	0.1	29.2	1.4	30.5	0.1	29.9	30.2	△ 0.3	28.7	1.2	30.0	△ 0.1
	10歳	33.6	34.6	△ 1.0	33.4	0.2	34.1	△ 0.5	34.3	33.8	0.5	33.5	0.8	34.1	0.2
	11歳	38.7	39.0	△ 0.3	37.0	1.7	38.4	0.3	39.2	39.0	0.2	37.6	1.6	39.0	0.2
中学校	12歳	44.0	44.6	△ 0.6	42.9	1.1	44.1	△ 0.1	43.4	43.5	△ 0.1	43.4	0.0	43.8	△ 0.4
	13歳	49.9	50.1	△ 0.2	48.1	1.8	49.2	0.7	47.3	46.3	1.0	46.9	0.4	47.3	0.0
	14歳	54.8	55.1	△ 0.3	53.1	1.7	54.4	0.4	49.6	50.0	△ 0.4	49.6	0.0	50.0	△ 0.4
高等学校	15歳	58.8	58.7	0.1	57.7	1.1	59.5	△ 0.7	51.6	50.7	0.9	51.3	0.3	51.6	0.0
	16歳	61.2	61.9	△ 0.7	60.4	0.8	61.5	△ 0.3	52.8	52.1	0.7	52.0	0.8	52.7	0.1
	17歳	63.2	62.9	0.3	61.3	1.9	63.1	0.1	52.3	52.2	0.1	51.7	0.6	52.9	△ 0.6

図3 平成22年度と昭和55年度(親の世代)との体重の差



注) 体重の差は、都の平成22年度平均値から昭和55年度(親の世代)平均値を差し引いたものである。

④ 平成4年度生まれ（平成22年度17歳）の年間発育量をみると、男子では11歳から12歳時に発育量が増加しており、12歳時に最大の発育量を示している。

女子では、10歳時に最大の発育量を示している。

また、この発育量を昭和37年度生まれ（親の世代の17歳）と比較すると、男子は発育量が最大となる時期は親の世代と同じ12歳となっており、5歳から8歳、10歳から11歳、14歳及び16歳の各歳時で親の世代を上回っている。女子では発育量が最大となる時期は親の世代より1歳早い10歳となっており、5歳から7歳、9歳から10歳、12歳、16歳の各歳時で親の世代を上回っている。

表4 平成4年度生まれと昭和37年度生まれの年間発育量の比較（体重）

（単位:kg）

区分	男子		女子	
	平成4年度生まれ (平成22年度17歳)	昭和37年度生まれ (親の世代の17歳)	平成4年度生まれ (平成22年度17歳)	昭和37年度生まれ (親の世代の17歳)
幼稚園	5歳時	2.6	2.2	1.6
	6歳時	2.2	2.8	1.9
小学校	7歳時	3.4	2.9	2.8
	8歳時	4.0	3.6	3.8
	9歳時	3.1	4.5	4.0
	10歳時	4.7	4.8	4.6
	11歳時	5.4	5.1	4.2
中学校	12歳時	5.9	4.0	3.8
	13歳時	3.8	2.1	2.9
	14歳時	5.2	1.2	1.2
高等学校	15歳時	2.2	0.8	1.7
	16歳時	1.3	0.2	△ 0.3
総発育量	43.8	42.6	33.3	33.4

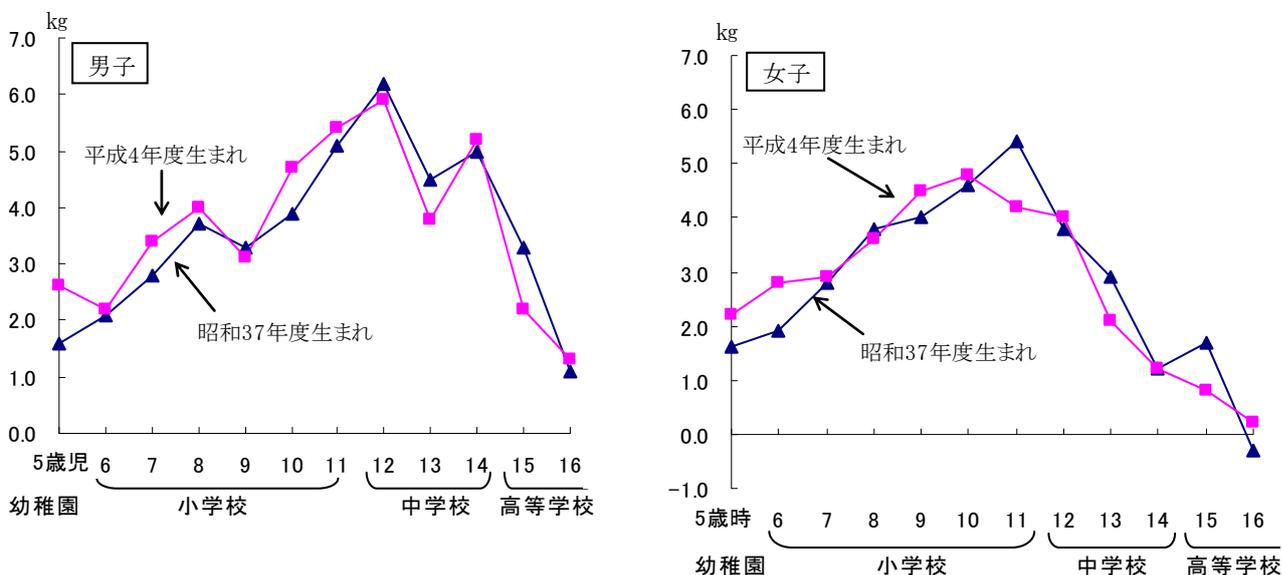
注1) 年間発育量とは、例えば、平成4年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成11年度調査6歳の者の体重から平成10年度調査5歳の者の体重を差し引いたものである。

2) 調査対象が異なるため、昭和37年度生まれ16歳女子はマイナスとなった。

3) 網掛けの数値は、年間発育量の最大値である。

4) 昭和37年度生まれの6歳、7歳、8歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を基に算出した。

図4 平成4年度生まれと昭和37年度生まれの年間発育量の比較（体重）



(3) 座高

(表5、図5、統計表1、統計表4-1、統計表4-2)

① 平成22年度の男子の座高は、5歳、9歳、11歳から13歳、15歳から17歳の各年齢で前年度の同年齢より増加し、14歳が88.6cm、16歳が91.5cm、17歳が92.3cmで過去最高となった。

女子の座高は、5歳から8歳、10歳、13歳、15歳、17歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、17歳が86.1cmで過去最高となった。

② 平成22年度の座高を昭和55年度(親の世代)と比較すると、最も差がある年齢は、男子は14歳及び17歳で1.6cm親の世代より高くなっている。女子では11歳で最も差が大きく1.3cm親の世代より高くなっている。

③ 平成22年度の座高を全国平均値と比較すると、男子は10歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。女子では、5歳、12歳、14歳を除く各年齢で全国平均値を上回っている。

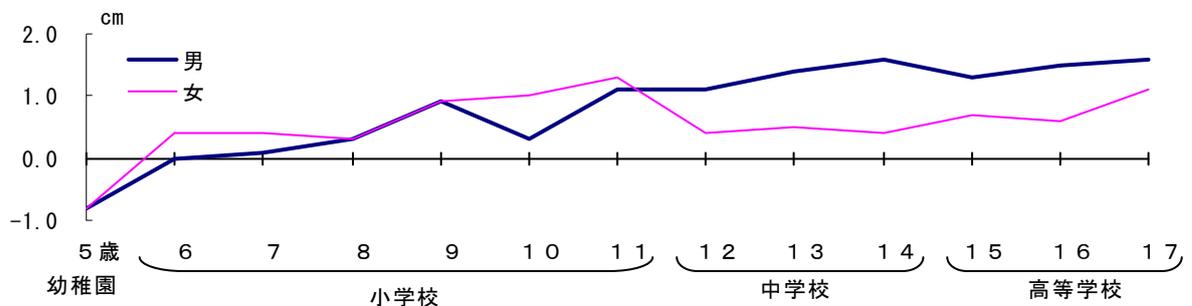
表5 年齢別座高の平均値

(単位:cm)

区分	男子								女子							
	平成22年度 A	平成21年度 B	A-B	昭和55年度(親の世代) C	A-C	平成22年度全国平均 D	A-D	平成22年度 E	平成21年度 F	E-F	昭和55年度(親の世代) G	E-G	平成22年度全国平均 H	E-H		
幼稚園	5歳	62.2	61.7	0.5	63.0	△ 0.8	61.9	0.3	61.5	61.3	0.2	62.3	△ 0.8	61.5	0.0	
	6歳	65.1	65.2	△ 0.1	65.1	0.0	64.9	0.2	64.9	64.6	0.3	64.5	0.4	64.5	0.4	
小学校	7歳	67.8	67.8	0.0	67.7	0.1	67.6	0.2	67.5	67.4	0.1	67.1	0.4	67.3	0.2	
	8歳	70.5	70.6	△ 0.1	70.2	0.3	70.3	0.2	70.2	69.8	0.4	69.9	0.3	70.0	0.2	
	9歳	72.9	72.7	0.2	72.0	0.9	72.7	0.2	72.9	73.0	△ 0.1	72.0	0.9	72.7	0.2	
	10歳	74.9	75.2	△ 0.3	74.6	0.3	74.9	0.0	76.1	75.8	0.3	75.1	1.0	75.9	0.2	
	11歳	77.8	77.6	0.2	76.7	1.1	77.6	0.2	79.4	79.4	0.0	78.1	1.3	79.2	0.2	
中学校	12歳	81.6	81.5	0.1	80.5	1.1	81.3	0.3	82.1	82.3	△ 0.2	81.7	0.4	82.1	0.0	
	13歳	85.4	85.2	0.2	84.0	1.4	85.0	0.4	84.0	83.5	0.5	83.5	0.5	83.8	0.2	
	14歳	88.6	88.6	0.0	87.0	1.6	88.1	0.5	84.8	84.8	0.0	84.4	0.4	84.8	0.0	
高等学校	15歳	90.4	90.1	0.3	89.1	1.3	90.3	0.1	85.4	85.2	0.2	84.7	0.7	85.3	0.1	
	16歳	91.5	91.3	0.2	90.0	1.5	91.3	0.2	85.7	85.7	0.0	85.1	0.6	85.6	0.1	
	17歳	92.3	91.7	0.6	90.7	1.6	91.9	0.4	86.1	85.7	0.4	85.0	1.1	85.8	0.3	

注)平成22年度については調査開始(昭和23年度)以来の最高値(過去最高と同値を含む)を網掛けで示している。

図5 平成22年度と昭和55年度(親の世代)との座高の差



注) 座高の差は、都の平成22年度平均値から昭和55年度(親の世代)平均値を差し引いたものである。

## 2 健康状態

### (1) 疾病・異常の被患率等の状況

(表6、統計表5-1)

学校種類別に疾病・異常の被患率等をみると、「むし歯(う歯)」の割合がすべての学校種類で高くなっている。また、「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎等)の者の割合が、小学校、中学校、高等学校では高く10%を超えている。

表6 学校種類別 疾病・異常の被患率等

(単位:%)

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
90%以上					
80%以上～90%未満					
70～80					
60～70					
50～60			裸眼視力1.0未満の者	むし歯(う歯)	
40～50		むし歯(う歯)	むし歯(う歯)		
30～40	むし歯(う歯)	裸眼視力1.0未満の者			
20～30					
10～20		鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患	鼻・副鼻腔疾患	
1～10	8～10				
	6～8	耳疾患 ぜん息	眼の疾病・異常 歯垢の状態		
	4～6	歯列・咬合 ぜん息	眼の疾病・異常 歯・口腔のその他の疾病・異常 アトピー性皮膚炎 歯列・咬合	歯肉の状態 歯列・咬合 耳疾患 ぜん息	眼の疾病・異常 歯垢の状態
	2～4	耳疾患 アトピー性皮膚炎	歯垢の状態 心電図異常	アトピー性皮膚炎 蛋白検出の者 心電図異常 歯・口腔のその他の疾病・異常	歯列・咬合 歯肉の状態 蛋白検出の者 ぜん息 アトピー性皮膚炎 耳疾患 心電図異常
	1～2	眼の疾病・異常 口腔咽喉頭疾患・異常 歯・口腔のその他の疾病・異常 その他の皮膚疾患 鼻・副鼻腔疾患	歯肉の状態 栄養状態	栄養状態 せき柱・胸郭	せき柱・胸郭
0.1～1	0.5～1	歯垢の状態 心臓の疾病・異常	難聴 心臓の疾病・異常 口腔咽喉頭疾患・異常 蛋白検出の者	心臓の疾病・異常 難聴 口腔咽喉頭疾患・異常	難聴 口腔咽喉頭疾患・異常 栄養状態 心臓の疾病・異常 顎関節
	0.1～0.5	蛋白検出の者 せき柱・胸郭 歯肉の状態 言語障害 顎関節 栄養状態 腎臓疾患	その他の皮膚疾患 せき柱・胸郭 寄生虫卵保有者 腎臓疾患 言語障害 顎関節 尿糖検出の者	顎関節 その他の皮膚疾患 腎臓疾患 尿糖検出の者	歯・口腔のその他の疾病・異常 尿糖検出の者 その他の皮膚疾患 腎臓疾患
0.1%未満		結核	結核 言語障害	言語障害	

注1)「口腔咽喉頭疾患・異常」とは、アデノイド、へんとう肥大、咽頭炎、へんとう炎、音声言語異常のある者等である。

2)「歯・口腔のその他の疾病・異常」とは、口角炎、口唇炎、口内炎、唇裂、口蓋裂、舌小帯異常、た石等のある者等である。

3)「心電図異常」とは、心電図検査の結果、異常と判定された者である。

4)「その他の皮膚疾患」とは、伝染性皮膚疾患、毛髪疾患等、アトピー性皮膚炎以外の皮膚疾患と判定された者である。

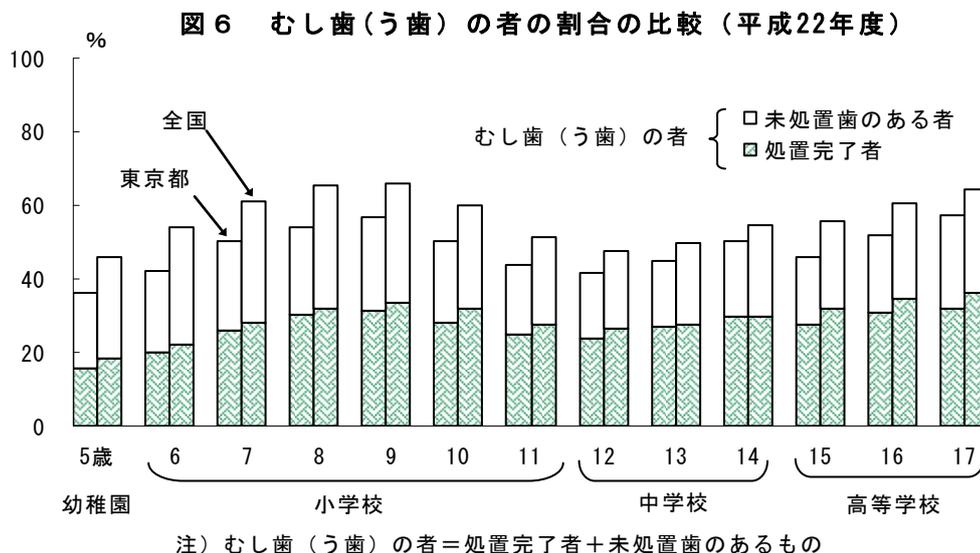
5)幼稚園及び高等学校の「裸眼視力1.0未満の者」については、疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者が50人未満または回答校が

(2) 主な疾病・異常の被患率

ア むし歯（う歯）

(図6、統計表5-1、参考表)

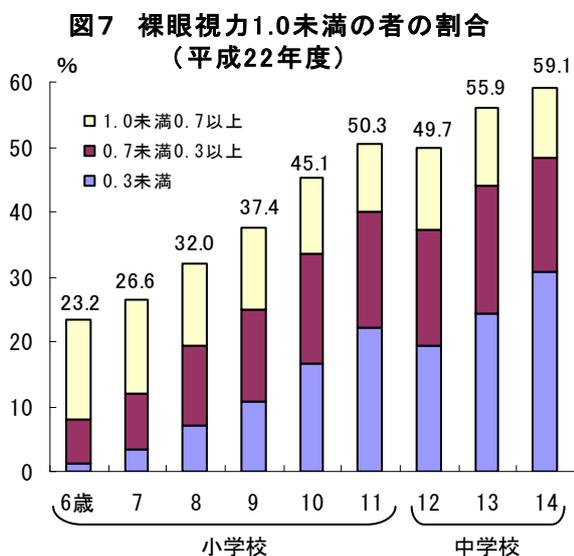
- ① 年齢別に「むし歯（う歯）」の者の割合をみると、5歳から9歳までは年齢が高くなるにつれて上昇し、10歳から12歳までは低下している。その後、15歳で低下するものの13歳以降は上昇傾向となっている。
- ② 全国平均値と比較すると、すべての年齢で「むし歯（う歯）」の者の割合は低くなっている。



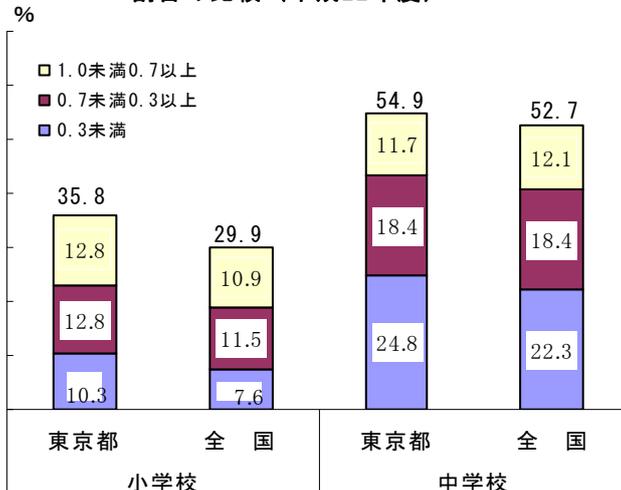
イ 裸眼視力1.0未満の者

(図7、図8、統計表5-1、参考表)

- ① 年齢別に「裸眼視力1.0未満の者」の割合をみると、学年が上がるにつれて割合が上昇する傾向にあり、中でも「0.3未満の者」が全体に占める割合が上昇している。
- ② 全国平均値と比較すると、小学校、中学校で「裸眼視力1.0未満の者」の割合は全国平均値より高くなっている。



**図8 学校種類別 裸眼視力1.0未満の者の割合の比較（平成22年度）**



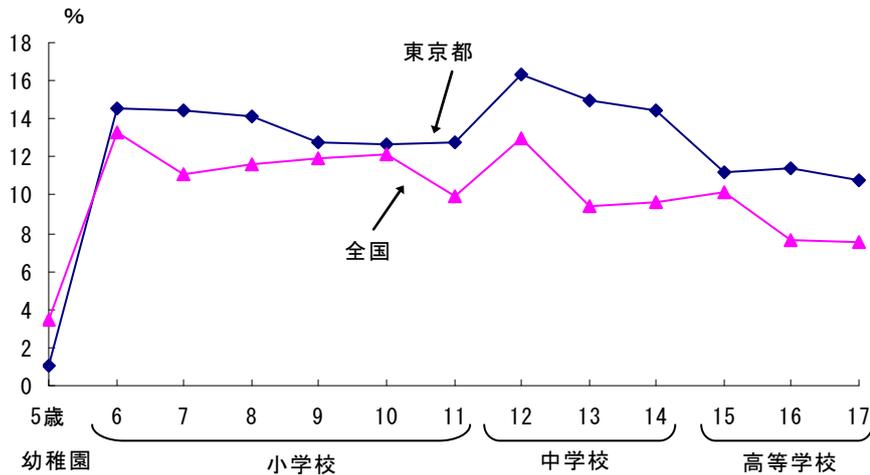
注) 全国の数値は、小数点以下第2位を四捨五入している。

### ウ 鼻・副鼻腔疾患

(図9、統計表5-1、参考表)

- ① 年齢別に「鼻・副鼻腔疾患」(蓄のう症、アレルギー性鼻炎等)の者の割合をみると、5歳を除く各年齢において10%を超えている。
- ② 全国平均値と比較すると、5歳を除く各年齢で「鼻・副鼻腔疾患」の者の割合は全国平均値より高くなっている。また、最も差がある年齢は13歳で5.6ポイント全国平均値を上回っている。

図9 鼻・副鼻腔疾患の者の割合の比較(平成22年度)

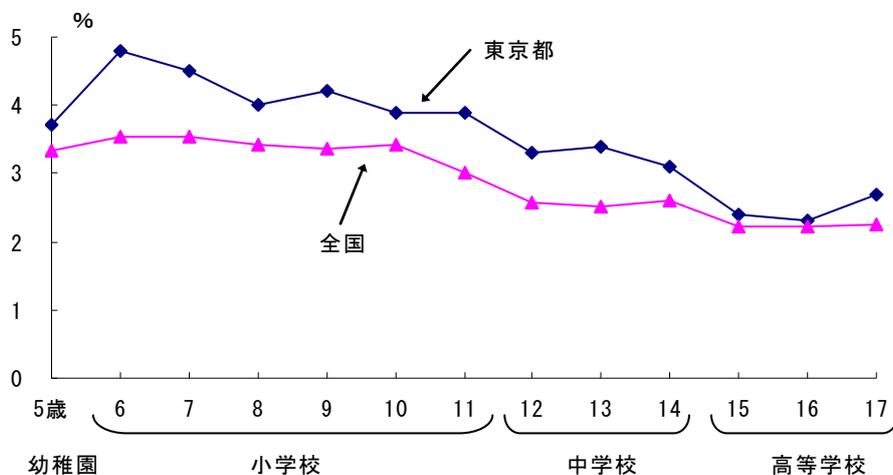


### エ アトピー性皮膚炎

(図10、統計表5-1、参考表)

- ① 年齢別に「アトピー性皮膚炎」の者の割合をみると、6歳から9歳までが高くなっており、12歳以降は年齢が高くなるにつれて減少する傾向となっている。
- ② 全国平均値と比較すると、すべての年齢で全国平均値より「アトピー性皮膚炎」の者の割合は高くなっている。

図10 アトピー性皮膚炎の者の割合の比較(平成22年度)

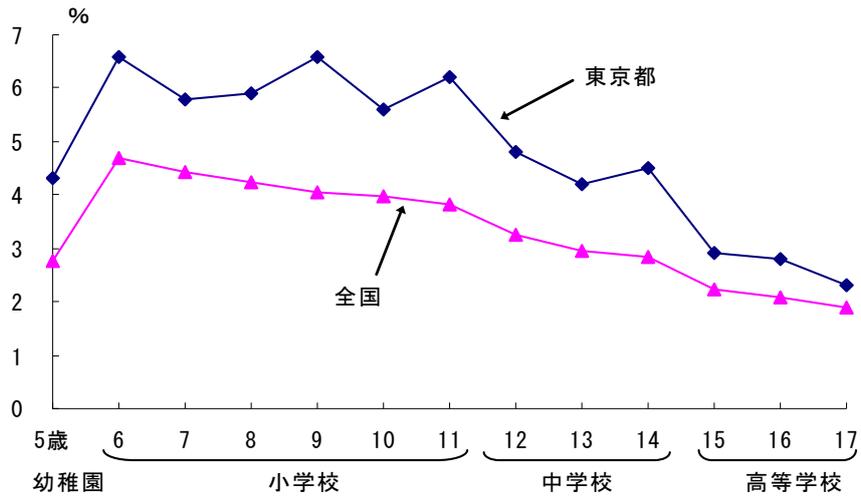


## オ ぜん息

(図 11、統計表 5-1、参考表)

- ① 年齢別に「ぜん息」の者の割合をみると、6歳から11歳で高くなっており、特に6歳及び9歳では6.6%と最も高くなっている。12歳以降は年齢が高くなるにつれて減少する傾向となっている。
- ② 全国平均値と比較すると、すべての年齢で全国平均値より「ぜん息」の者の割合は高くなっている。また、最も差がある年齢は9歳で2.6ポイント全国平均値を上回っている。

図 11 ぜん息の者の割合の比較 (平成22年度)

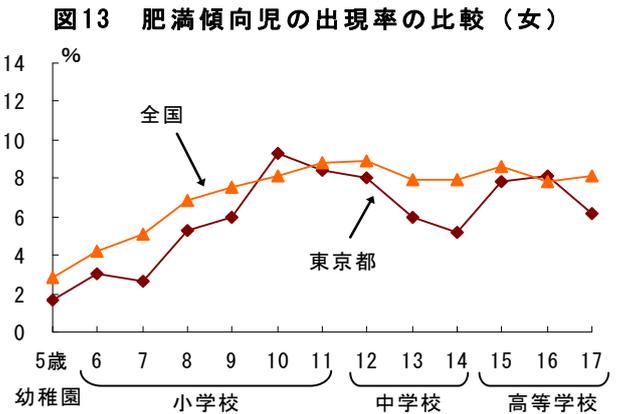
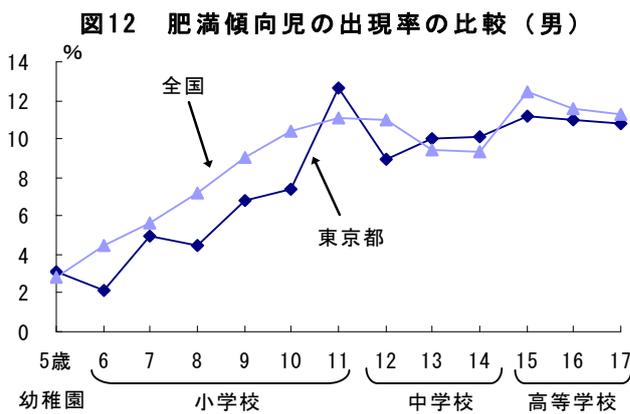


### 3 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

#### (1) 肥満傾向児の出現率

(図 12、図 13、統計表 6)

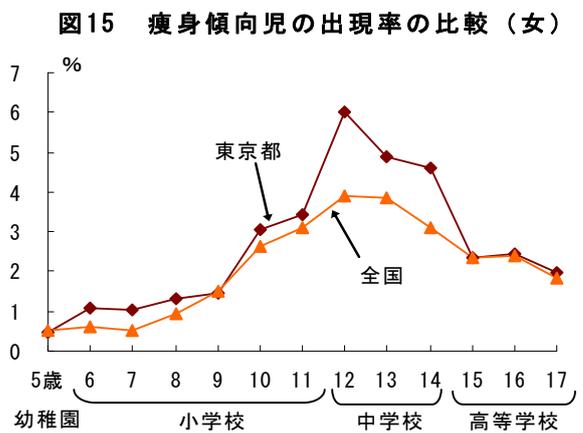
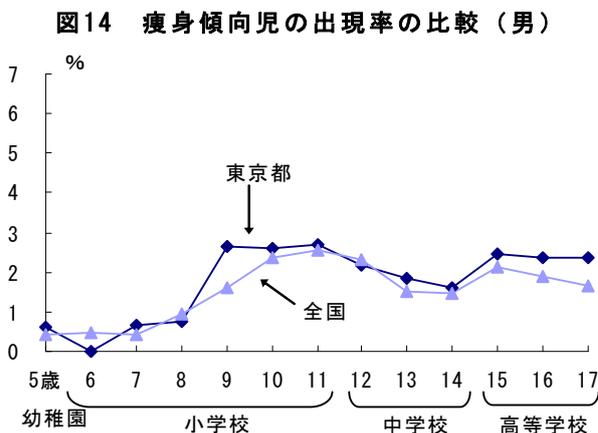
- ① 年齢別に肥満傾向児の出現率をみると、男子は年齢が高くなるにつれて割合が高くなる傾向にあり、11歳で12%を超え最も高くなっている。女子は、10歳までは年齢が高くなるとともに割合が高くなる傾向にあり、10歳で9%を越えている。その後、14歳まで減少した後、16歳まで上昇するなど、増減を繰り返している。
- ② 全国平均値と比較すると、男子は5歳、11歳、13歳、14歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。  
女子は、10歳、16歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。



#### (2) 痩身傾向児の出現率

(図 14、図 15、統計表 7)

- ① 年齢別に痩身傾向児の出現率をみると、男子は9歳で急上昇し11歳にかけて3%近くで推移し、12歳以降で一旦低下する。その後、15歳で再度上昇している。  
女子は、10歳から12歳にかけて急上昇し12歳で6%を超えるが、その後急激に減少している。
- ② 全国平均値と比較すると、男子は9歳で1.04ポイント全国平均値を上回っているが、それ以外の年齢ではほぼ同様の傾向を示している。  
女子は特に12歳から14歳で全国平均値を上回り、12歳で2.10ポイントの差があるが、それ以外の年齢ではほぼ同様の傾向となっている。



・肥満度の求め方は以下のとおりである。

性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、-20%以下の者を痩身傾向児としている。

算式は以下のとおりである。

$$\text{肥満度} = [\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}] / \text{身長別標準体重(kg)} \times 100 (\%)$$

$$\text{※ 身長別標準体重(kg)} = a \times \text{実測身長(cm)} - b$$

年齢	男		女	
	a	b	a	b
5歳	0.386	23.699	0.377	22.750
6歳	0.461	32.382	0.458	32.079
7歳	0.513	38.878	0.508	38.367
8歳	0.592	48.804	0.561	45.006
9歳	0.687	61.390	0.652	56.992
10歳	0.752	70.461	0.730	68.091
11歳	0.782	75.106	0.803	78.846
12歳	0.783	75.642	0.796	76.934
13歳	0.815	81.348	0.655	54.234
14歳	0.832	83.695	0.594	43.264
15歳	0.766	70.989	0.560	37.002
16歳	0.656	51.822	0.578	39.057
17歳	0.672	53.642	0.598	42.339

出典:財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」平成18年

※ (参考) 平成22年度調査の平均身長の場合の標準体重

年齢	男			女		
	平均身長 (cm)	平均身長 時の標準 体重(kg)	平均体重 (kg)	平均身長 (cm)	平均身長 時の標準 体重(kg)	平均体重 (kg)
5歳	110.7	19.0	19.0	109.8	18.6	18.6
6歳	116.7	21.4	21.4	115.8	21.0	21.0
7歳	122.5	24.0	24.0	121.7	23.5	23.5
8歳	128.2	27.1	27.2	127.4	26.5	26.5
9歳	133.5	30.3	30.5	133.5	30.1	30.0
10歳	138.8	33.9	34.1	140.2	34.3	34.1
11歳	145.0	38.3	38.4	146.8	39.0	39.0
12歳	152.4	43.7	44.1	151.9	44.0	43.8
13歳	159.7	48.8	49.2	155.0	47.3	47.3
14歳	165.1	53.7	54.4	156.5	49.7	50.0
15歳	168.2	57.9	59.5	157.1	51.0	51.6
16歳	169.9	59.6	61.5	157.7	52.1	52.7
17歳	170.7	61.1	63.1	158.0	52.1	52.9